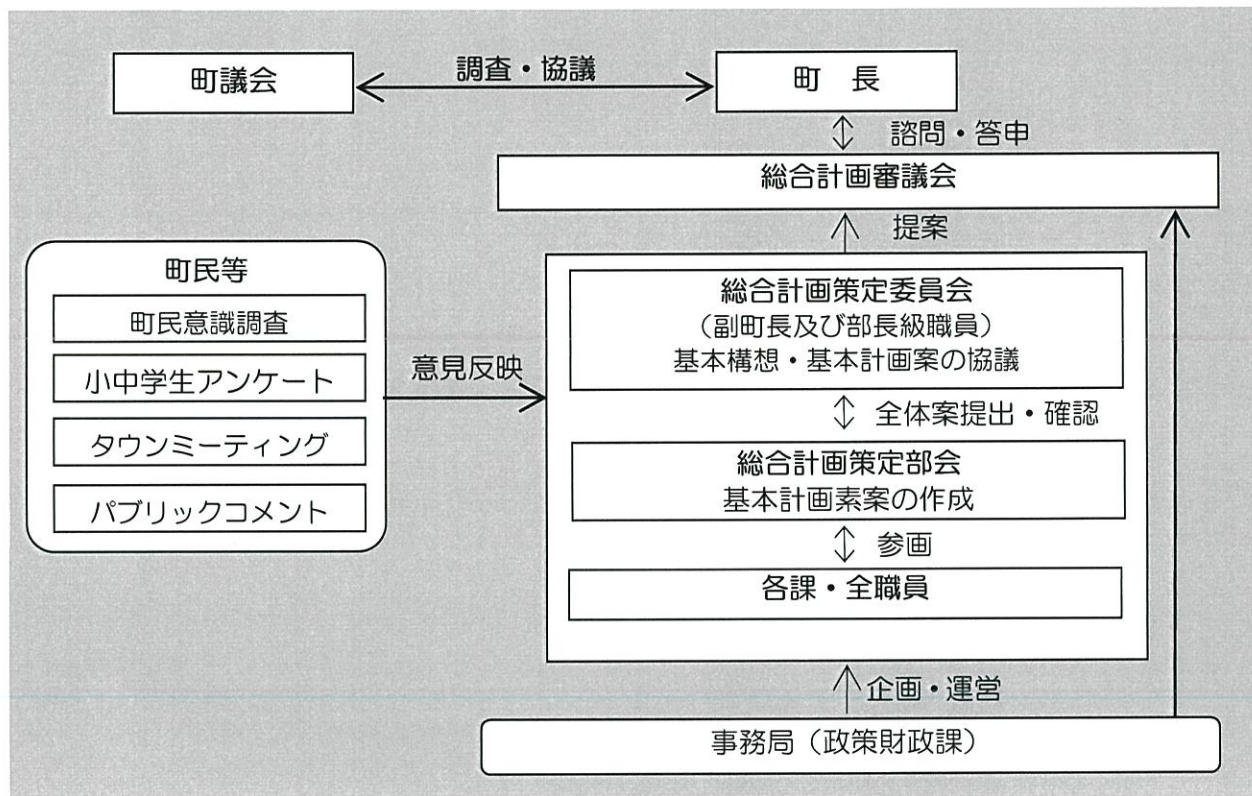


資料編

1 策定体制と経緯

(1) 策定体制



(2) 策定経過

	令和	月日	議会	審議会	庁内組織	町民参加等	事項	概要
令和元年度	元年	5月13日			●		第1回策定委員会	見直し策定方針 策定部会の設置
		6月3日			●		第1回策定部会	見直し策定方針 前期基本計画事業評価
		6月7日	●				第2回定例会 総合計画推進調査特別委員会	実施計画・見直し策定方針
		7月10日			●		第2回策定委員会	町民アンケート等の事業概要
		7月23日				●	タウンミーティング	第1地区
		7月25日						第2地区
		7月30日						第3地区
		8月1日						第4地区
		8月6日						第5地区
		8月8日						第6地区
		8月1日			●		第2回策定部会	前期基本計画事業評価結果の取りまとめ 後期基本計画予定事業の検討
		8月9日～ 9月12日				●	町民アンケート 児童・生徒アンケート	基本施策の満足度・重要度把握 目標指標達成状況把握

	令和	月日	議会	審議会	庁内組織	町民参加等	事項	概要
令和元年度	元年	9月2日			●		第3回策定委員会	前期基本計画事業評価結果の報告 後期基本計画予定事業の提案
		10月16日			●		第3回策定部会	後期基本計画予定事業の再検討 町民アンケート等の結果報告（概要）
		10月31日			●		第4回策定委員会	町民アンケート等の結果報告 後期基本計画予定事業の再確認
		11月20日			●		第5回策定委員会	後期基本計画予定事業の再確認
		12月4日	●				第4回定例会 総合計画推進調査特別委員会	町民アンケート等の結果報告（概要） 後期基本計画予定事業の概要説明
	2年	1月15日			●		第6回策定委員会	後期基本計画の修正確認
		2月3日		●			第1回審議会	後期基本計画 諮問
		2月4日～ 2月14日				●	パブリックコメント	後期基本計画に係るパブリックコメントの実施
		2月17日			●		第7回策定委員会	後期基本計画の修正確認
		2月19日		●			第2回審議会	後期基本計画 答申
		3月5日	●				第1回定例会 総合計画推進調査特別委員会	後期基本計画 報告

2 大野町総合計画審議会

(1) 審議会条例

○大野町総合計画審議会設置条例

昭和42年12月21日

条例第18号

改正 平成11年12月24日条例第14号

平成12年3月17日条例第14号

(設置)

第1条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項の規定に基づき、大野町総合計画審議会(以下「審議会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、町長の諮問に応じ、大野町総合計画の策定に関する必要な事項について調査及び審議する。

(組織)

第3条 審議会は、委員15人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱する。

(1) 町教育委員会の委員

(2) 町農業委員会の委員

(3) 国又は他の地方公共団体の職員

(4) 団体の役員又は職員

(5) 識見を有する者

3 委員は非常勤とする。

(任期等)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠により委員となった者の任期は前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会は、会長が招集する。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(部会)

第7条 特別の事項を調査審議させるため、必要に応じ審議会に部会を置くことができる。

2 部会に属すべき委員は、会長が指名する。

3 部会に部会長をおき、部会に属する委員のうちから互選する。

4 部会長は、部会の事務を掌理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営について必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平成11年条例第14号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成12年条例第14号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

(2) 審議会委員名簿

区 分	氏 名	関係団体・役職名	備考
町教育委員会	常富 みどり	大野町教育委員代表	
町農業委員会	加納 準一	大野町農業委員会会長	副会長
識見を有する者	安田 正博	大野町商工同友会代表幹事	
団体の役員	羽賀 茂樹	大野町商工会会長	
識見を有する者	小川 美代子	大野町ゆうばみクラブ会長	
識見を有する者	松浦 正幸	大野町広報委員地区代表	会長
識見を有する者	平野 光雄	大野町広報委員地区代表	
識見を有する者	国枝 源幸	大野町広報委員地区代表	
識見を有する者	小川 信勝	大野町広報委員地区代表	
識見を有する者	宇佐美 利夫	大野町広報委員地区代表	
識見を有する者	國枝 寛	大野町広報委員地区代表	

順不同 敬称略

(3) 諮問・答申

諮 問 書

大政第1772号
令和2年2月3日

大野町総合計画審議会会長 様

大野町長 宇佐美 晃三

大野町総合計画基本計画について（諮問）

大野町が目指すべき姿と、その実現に向けた基本的な取り組みを示し、まちづくりの基本的な方向を明らかにするため、指針となる大野町第六次総合計画の改定にあたり、大野町総合計画審議会条例第2条の規定に基づき、貴審議会の意見を求めます。

答 申 書

令和 2 年 2 月 1 9 日

大野町長 宇佐美 晃三 様

大野町総合計画審議会
会長 松浦 正幸

大野町総合計画基本計画について（答申）

令和 2 年 2 月 3 日付けで諮問のありました大野町第六次総合計画基本計画については、慎重に審議した結果、次の意見を付して答申いたします。

なお、計画の推進にあたっては、本答申及び審議過程で各委員から出された意見を十分に尊重し、町民との協働、役割分担、また、関係機関や諸団体等との連携を図りながら「快適で 笑顔あふれるやすらぎのまち おおの」の実現に最善を尽くされるよう要望いたします。

記

- 1 基本計画の推進にあたっては、庁内における計画の進行管理体制をしっかりと確立し、その進捗度や取り組み状況を十分把握し、計画的な事業の推進を図られたい。
- 2 基本計画においては、各分野にわたって総合的に推進すべき施策が的確に整理されているが、これらを着実に実施していくためには、財政状況等を踏まえつつ、施策・事業の優先順位や実施方法等について慎重に検討するとともに、毎年度の実施計画に反映し、効果的・効率的な推進を図られたい。
- 3 基本計画に位置付けられた施策及び事業の推進にあたっては、町職員の主体的な役割の発揮を期待するとともに、町民との協働の観点から、町民一人ひとりがまちづくりに積極的に参画できるよう努められたい。
- 4 人口減少・少子高齢化が進行する中であって、活力ある大野町を維持・創出し、次代にしっかりと受け継いでいくため、特に、農業や商工業による地域産業の活性化に努めるとともに、公共交通機関の充実をはじめ安心して暮らせる環境づくりや次代を担う人づくり等の人材育成、また、大野神戸 I C の開通を契機とした販わいの創出等に努められたい。

3 各種意向調査の概要

(1) 町民アンケート

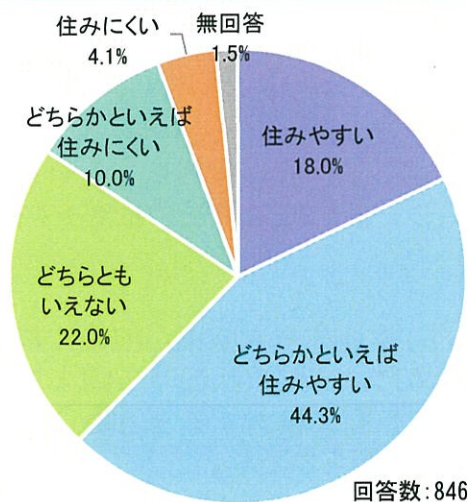
第六次総合計画改定に係る町民アンケート調査より、主な結果を整理します。

①住みやすさについて

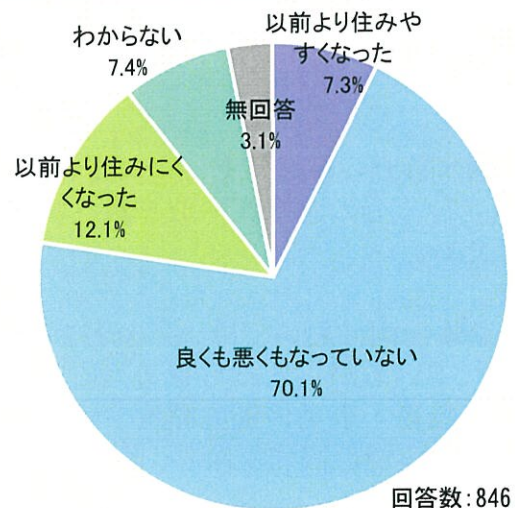
『総合的にみて、大野町は住みよいところだと感じますか』とたずねたところ、「住みやすい」が18.0%、「どちらかといえば住みやすい」が44.3%、あわせて約60%が大野町は住みよいところだと回答しています。

『ここ数年の間に、お住まいの周辺の生活環境は、全般的にどのようなになったと感じますか』とたずねたところ、「良くも悪くもなっていない」が過半を占め、そのほかでは「以前より住みやすくなった」が7.3%、「以前より住みにくくなった」が12.1%となっており、住みにくくなったとする回答がやや多くなっています。以前より住みやすくなった理由では、買い物利便性の向上や道路の整備が多く、住みにくくなった理由で、公共交通機関の不便さが多く挙げられています。

■大野町の住みやすさ



■周辺の生活環境の評価



■周辺の生活環境が以前より住やすくなった理由・住みにくくなった理由

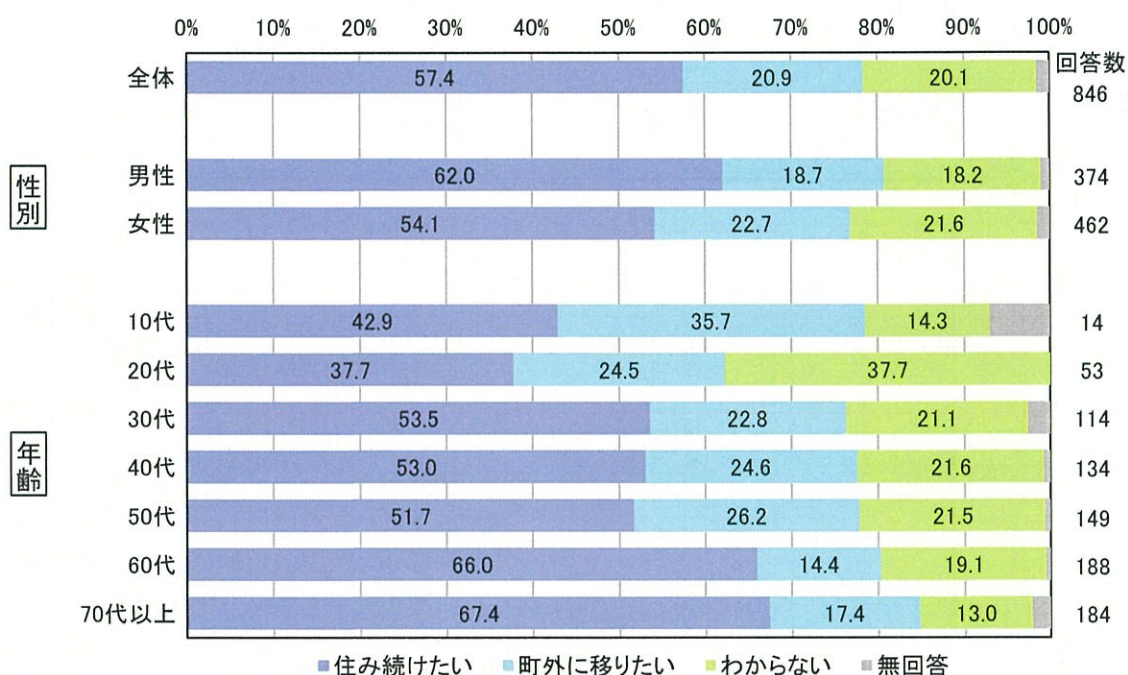
以前より住みやすくなった理由	以前より住みにくくなった理由
○ 店舗の増加、買い物利便性の向上 ○ 道路整備 ○ 道の駅の開業	▽ 公共交通機関が不便 ▽ 地域活動への無関心 ▽ 住民のモラル、マナーの低下 ▽ 町民の高齢化、出産人口の減少 ▽ 空家の増加 ▽ 鳥獣被害、耕作放棄地の増加 ▽ 税金、保険料が高い

②居留意向

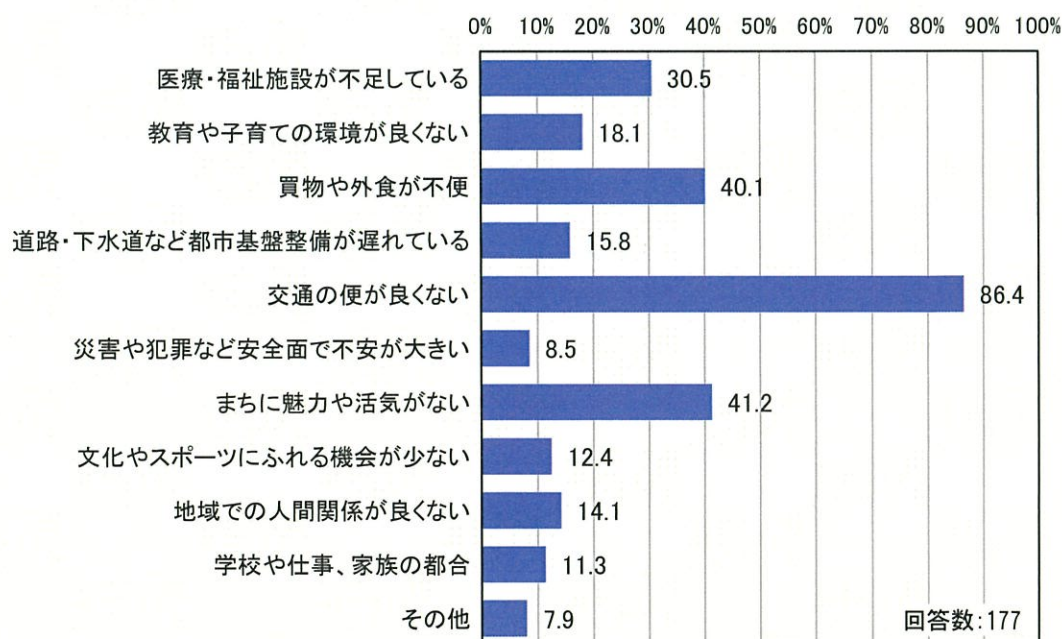
『今後も大野町に住み続けたいと思いますか』とたずねたところ、「住み続けたい」が57.4%と半数を超え、「町外に移りたい」は20.9%となっています。なお、20.1%は「わからない」と回答しています。年齢別では、年齢が高くなるほど「住み続けたい」とする割合が高くなる傾向にあります。

また、「町外に移りたい」と回答した方に『町外に移りたい理由は何ですか』とたずねたところ、「交通の便が良くない」が86.4%で最も多く、以下、「まちに魅力や活気がない」が41.2%、「買物や外食が不便」が40.1%と続いており、生活の利便性に関する回答が多くなっています。

■今後の大野町への居留意向



■町外に移りたい理由



③主な施策の評価について

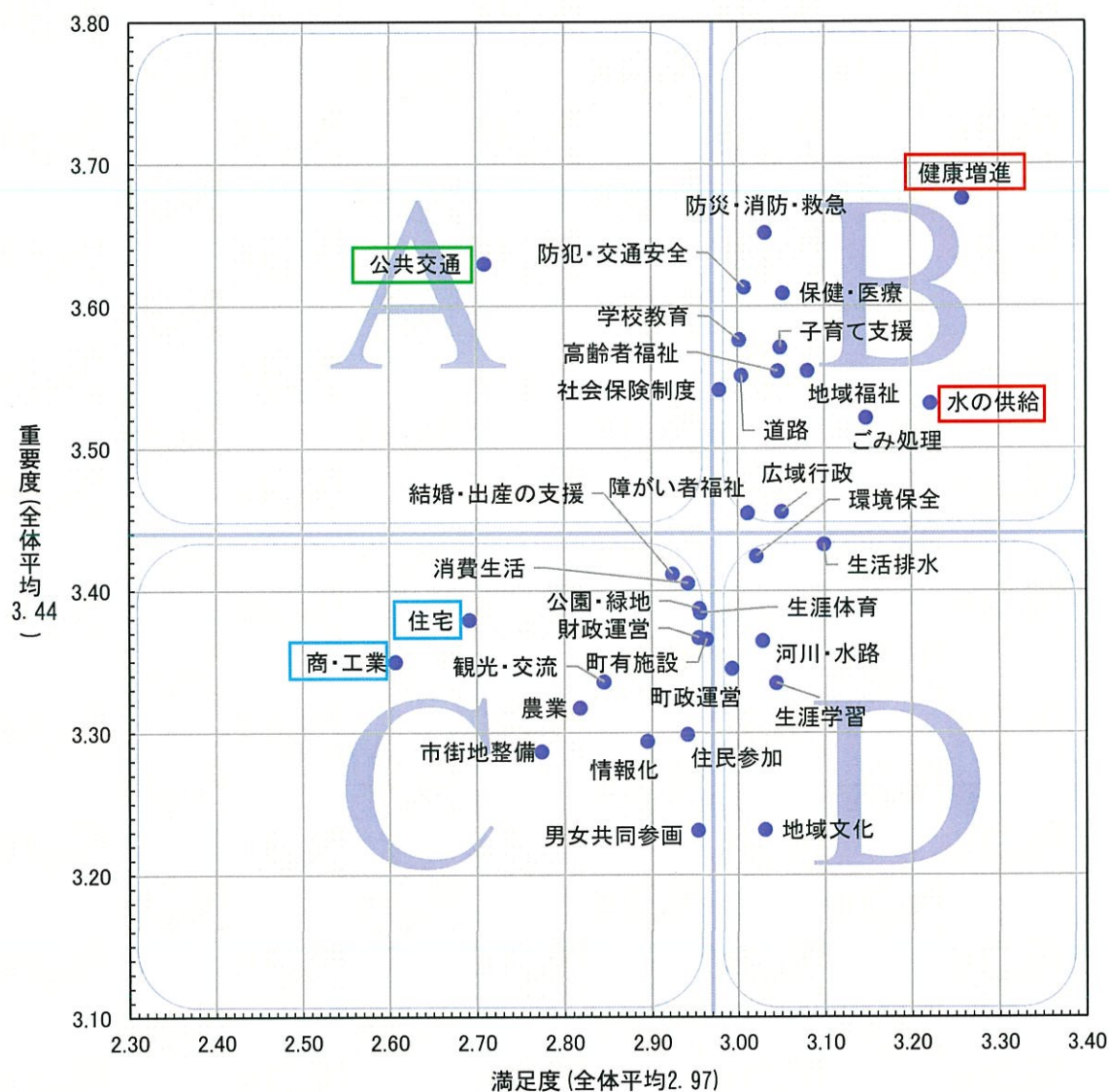
現在の評価（満足度）と今後への期待（重要度）を以下のとおり点数化し、「A：満足度が低く、重要度が高いもの」、「B：満足度が高く、重要度が高いもの」、「C：満足度が低く、重要度が低いもの」、「D：満足度が高く、重要度が低いもの」の4つの領域に分類しました。

満足度が高い項目としては、「健康増進」が3.26、「水の供給」が3.22となっています。一方、満足度が低い項目としては、「商・工業」が2.61、「住宅」が2.69となっています。

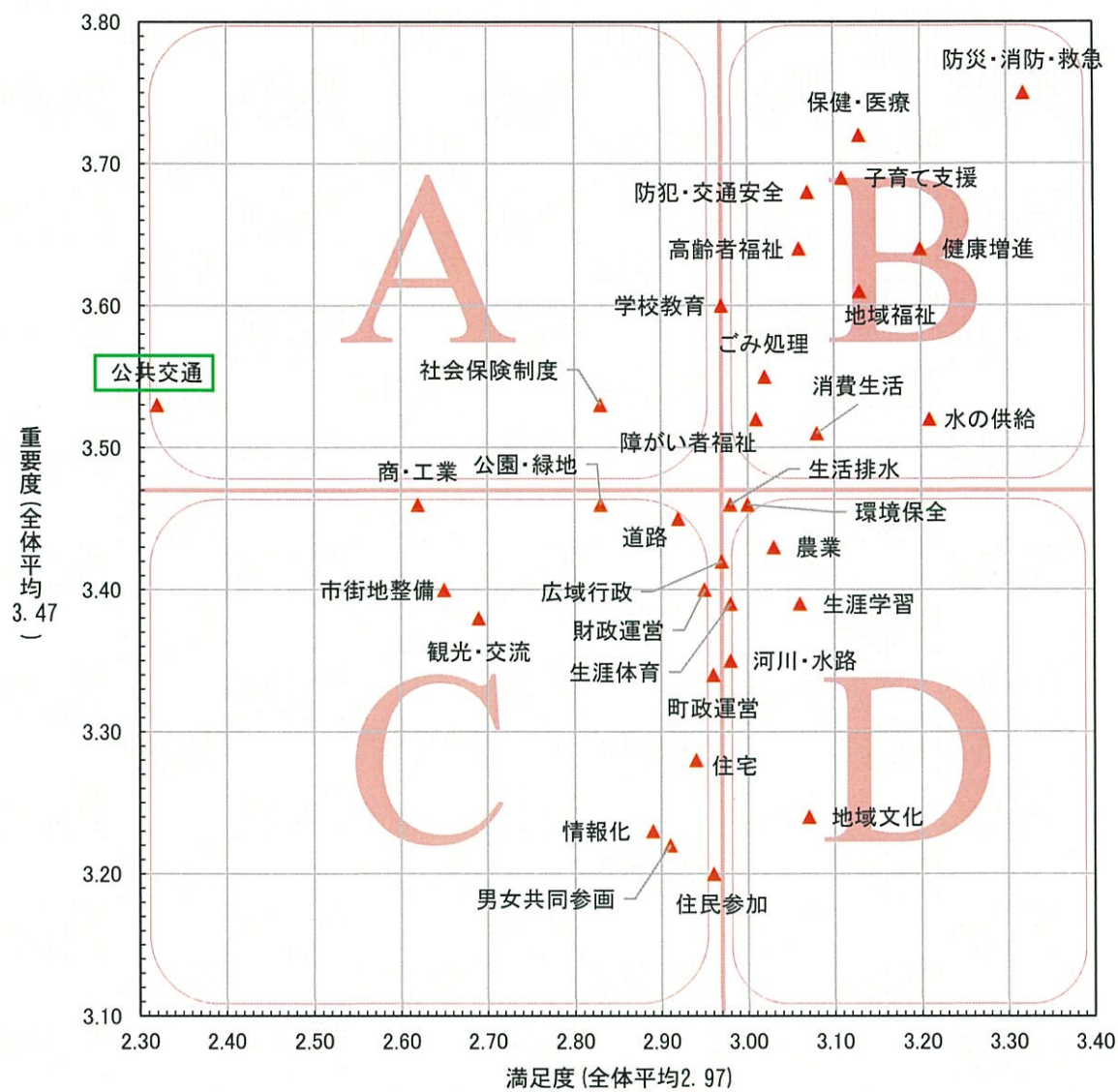
重要度が高い項目としては、「健康増進」が3.68、「防災・消防・救急」が3.65、「公共交通」が3.63となっています。一方、重要度が低い項目としては、「男女共同参画」「地域文化」が3.23、「市街地整備」「情報化」が3.29となっています。

満足度が低く、重要度が高い項目（散布図の分類Aに該当するもの）としては、「公共交通」が該当しており、今後重点的な対応が求められる事項と考えられます。

■満足度・重要度の散布図（令和元年（2019年））



■満足度・重要度の散布図（平成26年（2014年））



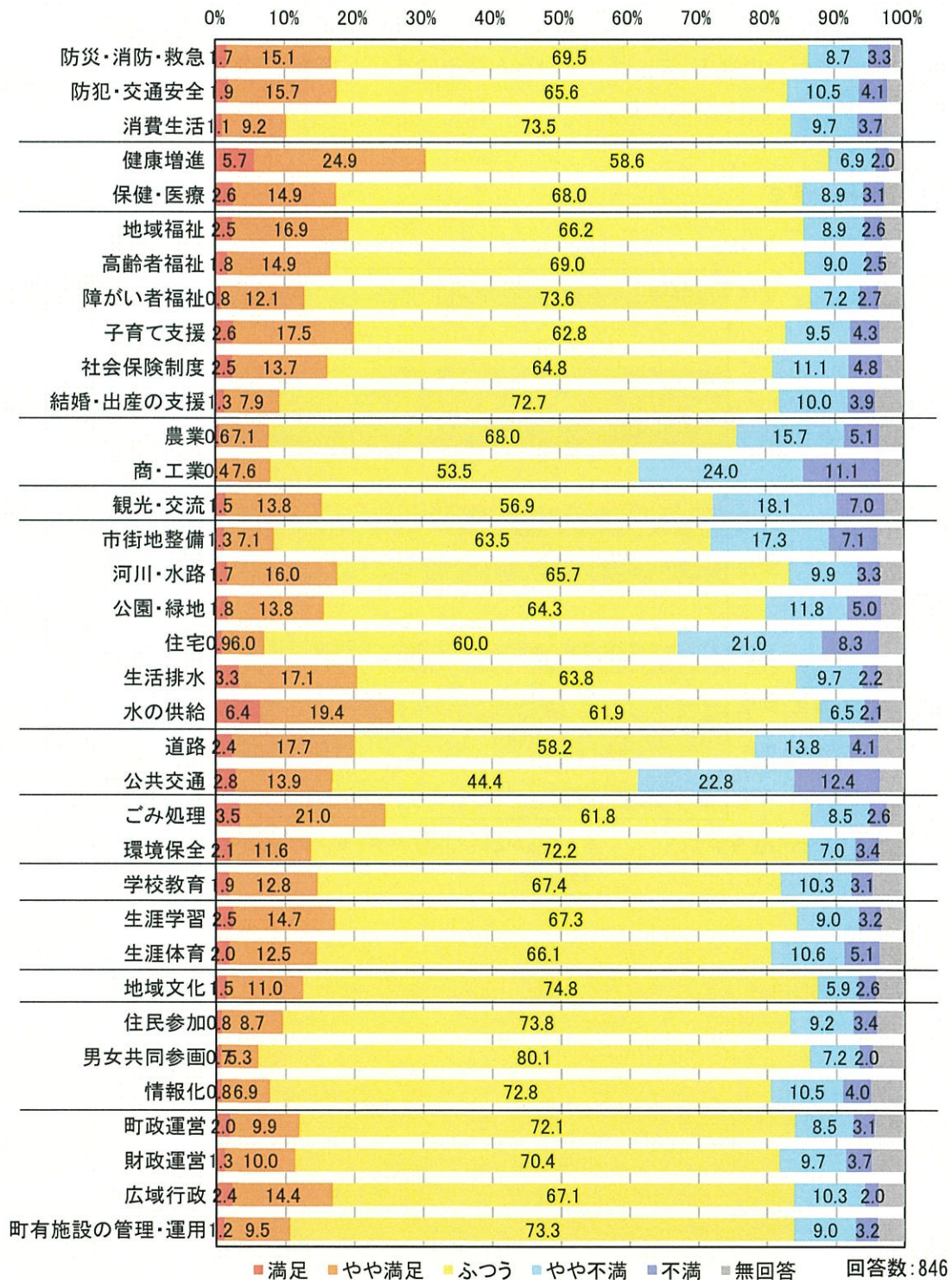
■満足度・重要度の平均ポイント増減表

	R1		H26		R1-H26		評価	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	R1	H26
1-① 防災・消防・救急	3.03	3.65	3.32	3.75	-0.29	-0.10	B	B
1-② 防犯・交通安全	3.01	3.61	3.07	3.68	-0.06	-0.07	B	B
1-③ 消費生活	2.94	3.41	3.08	3.51	-0.14	-0.10	C	B
2-① 健康増進	3.26	3.68	3.20	3.64	0.06	0.04	B	B
2-② 保健・医療	3.05	3.61	3.13	3.72	-0.08	-0.11	B	B
3-① 地域福祉	3.08	3.55	3.13	3.61	-0.05	-0.06	B	B
3-② 高齢者福祉	3.05	3.55	3.06	3.64	-0.01	-0.09	B	B
3-③ 障がい者福祉	3.01	3.45	3.01	3.52	0.00	-0.07	B	B
3-④ 子育て支援	3.05	3.57	3.11	3.69	-0.06	-0.12	B	B
3-⑤ 社会保険制度	2.98	3.54	2.83	3.53	0.15	0.01	B	A
3-⑥ 結婚・出産の支援	2.92	3.41					C	
4-① 農業	2.82	3.32	3.03	3.43	-0.21	-0.11	C	D
4-② 商・工業	2.61	3.35	2.62	3.46	-0.01	-0.11	C	C
5-① 観光・交流	2.84	3.34	2.69	3.38	0.15	-0.04	C	C
6-① 市街地整備	2.77	3.29	2.65	3.40	0.12	-0.11	C	C
6-② 河川・水路	3.03	3.36	2.98	3.35	0.05	0.01	D	D
6-③ 公園・緑地	2.95	3.39	2.83	3.46	0.12	-0.07	C	C
6-④ 住宅	2.69	3.38	2.94	3.28	-0.25	0.10	C	C
6-⑤ 生活排水	3.10	3.43	2.98	3.46	0.12	-0.03	D	D
6-⑥ 水の供給	3.22	3.53	3.21	3.52	0.01	0.01	B	B
7-① 道路	3.00	3.55	2.92	3.45	0.08	0.10	B	C
7-② 公共交通	2.71	3.63	2.32	3.53	0.39	0.10	A	A
8-① ごみ処理	3.15	3.52	3.02	3.55	0.13	-0.03	B	B
8-② 環境保全	3.02	3.42	3.00	3.46	0.02	-0.04	D	D
9-① 学校教育	3.00	3.58	2.97	3.60	0.03	-0.02	B	B
10-① 生涯学習	3.04	3.34	3.06	3.39	-0.02	-0.05	D	D
10-② 生涯体育	2.96	3.38	2.98	3.39	-0.02	-0.01	C	D
11-① 地域文化	3.03	3.23	3.07	3.24	-0.04	-0.01	D	D
12-① 住民参加	2.94	3.30	2.96	3.20	-0.02	0.10	C	C
12-② 男女共同参画	2.95	3.23	2.91	3.22	0.04	0.01	C	C
12-③ 情報化	2.89	3.29	2.89	3.23	0.00	0.06	C	C
13-① 町政運営	2.99	3.35	2.96	3.34	0.03	0.01	D	C
13-② 財政運営	2.95	3.37	2.95	3.40	0.00	-0.03	C	C
13-③ 広域行政	3.05	3.46	2.97	3.42	0.08	0.04	B	D
13-④ 町有施設	2.96	3.37					C	
平均値	2.97	3.44	2.97	3.47	0.01	-0.03		

④まちづくり分野に対する「満足度」

第六次総合計画に掲げる基本施策について、大野町が目指す目標の姿をどれだけ実現できているから段階評価を行いました。「満足」・「やや満足」を含めた満足度の高かったのは、「健康増進」、「水の供給」「ごみ処理」となっており、一方、不満度の高い分野としては、「公共交通」、「商・工業」「住宅」があがっています。

■まちづくり分野に対する「満足度」



(2) 小中学生アンケート

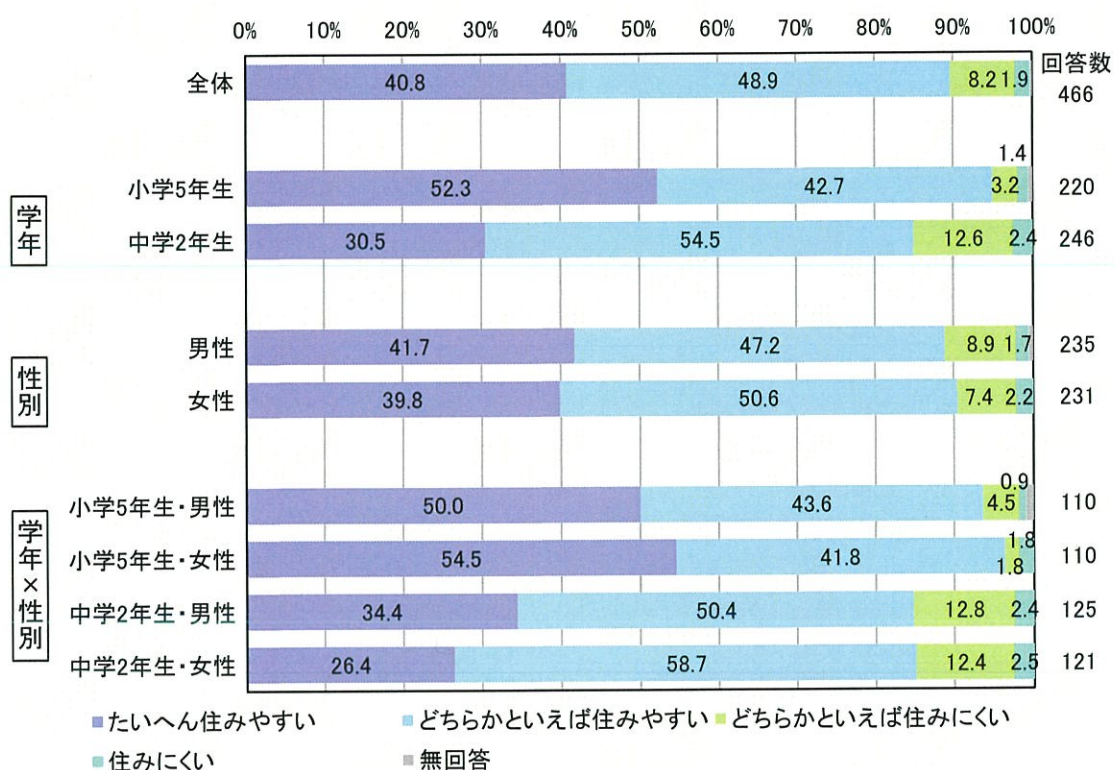
第六次総合計画改定に係る小中学生アンケート調査より、主な結果を整理します。

①住みやすさについて

『ふだん生活していて、大野町は住みやすいまちだと思いますか』とたずねたところ、全体では「たいへん住みやすい」が 40.8%、「どちらかといえば住みやすい」が 48.9%、あわせて 90%弱が大野町は住みよいところだと回答しています。

学年別にみると、小学 5 年生は「たいへん住みやすい」が 52.3%であるのに対し、中学 2 年生は 30.5%にとどまっています。

■大野町の住みやすさ

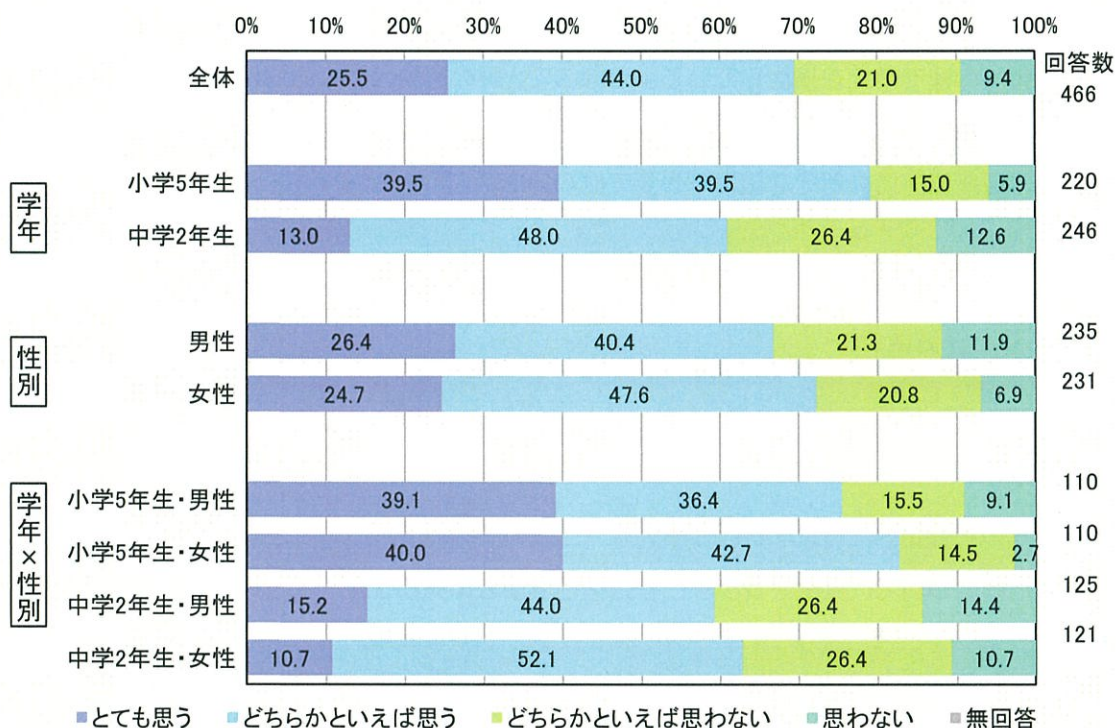


②居住意向

『今後も大野町にずっと住んでいたいと思いますか』とたずねたところ、全体では「とても思う」が25.5%、「どちらかといえば思う」が44.0%、あわせて70%弱が大野町に住み続けたいと回答しています。

学年別にみると、小学5年生に対し中学2年生では、「たいへん住みやすい」の割合が大きく低下し、「どちらかといえば思わない」「思わない」の割合が高くなっています。

■今後の大野町への居住意向



(3) タウンミーティング

各地区で開催したタウンミーティングでいただいた意見を、第六次総合計画の計画分野に応じて整理しました。

①安全・安心分野

<安全確保>

防災・消防・救急
● 防災無線が聞こえづらい。防災無線で発信するだけというのはやめてほしい。 ● 警戒情報を詳しく町民に伝える仕組みを構築してほしい。 ● 避難所について、2,000 世帯あるが、第 2 公民館、大野中、大野小で対応できるのか。 ● 町民体育館の建て替えを検討しているようなので、野の運動公園に宿泊機能や災害拠点となる複合的な施設を検討してはどうか。 ● 廃棄物の関係で、災害時に廃棄物、汚泥等が出ると思うが、相羽の不燃物処理場だけで対応できるのか。最終処分場の新たな確保は必要ではないか。
防犯・交通安全
● 町で設置している防犯カメラについて、どれくらいあるか。防犯対策に必要。

<健康づくりと保健医療>

健康増進
● 行政が町民の健康づくりに対してどのような後押しをしてくれるのか。

<社会福祉>

地域福祉
● 心配事相談について、保健センターと社会福祉協議会の弁護士が一緒なので、別の弁護士にしてほしい。
高齢者福祉
● 高齢者の 1 人暮らしについて、支援の具体的な方法はなにか。 ● 車椅子と松葉杖で移動しているような高齢者の方について、生ごみの処理や買い物をお願いできるシステムを有料でもいいので検討してほしい。
子育て支援
● 西保育園の統合は十分理解しているが寂しい。住民の意見をしっかり聞いて跡地利用を検討してほしい。(第 4 公民館の駐車場が狭い)

②産業・交流分野

<産業振興>

農業
● 有害鳥獣(猿)の出没対策について、野菜等の被害がある。人的被害が出たらどうするのか。 ● 檻を設置したが、カラスをどれだけ捕獲したか(H30)。 ● 耕作放棄地について対応をお願いしたい。 ● 有害鳥獣被害について、南方区で約 20 名の方が被害に困っている。糞が残されているため、それを町に持って行けば動物の特定をしてもらえるか。被害があってから檻を貸し出してもらっているが、被害があってからでは遅いので、早めに(6 月頃に)貸し出しを依頼したい。

商・工業
● テクノパーク大野周辺の交通安全、環境問題など心配。協定関係はどうなっているか。 ● テクノパーク大野周辺の雑草繁茂の対応と猿の駆除について検討してほしい。 ● 鶯地区においても、北のテクノパーク大野、南の土地区画整理のように、地区の発展につながる事業を進めてはどうか。

③生活・環境分野

<都市基盤>

河川・水路
● 南部治水対策について、平成 14 年 7 月の台風 6 号の集中豪雨で花田川が氾濫し、甚大な被害を受けた。花田川に排水機場を建設いただいたが、不十分。根尾川右岸堤防の補強について要望を提出したがその後の進捗を伺いたい。
住宅
● 空き家問題について、町や区として取り壊す予定があるか。 ● 特定空き家が有害鳥獣のすみかになっているか調査したい。

<交通ネットワーク>

道路
● 野の木柵道路について、破損箇所の修繕、倒木の対応をお願いしたい。 ● 道路管理について、白線が消えかかっており引き直してほしい。 ● 県道根尾谷汲大野線は、トラックやオートバイが走行し危険。名鉄廃線敷もあるが、整備を進めてもらいたい。 ● 県道中之元古川線の法面の防草シートが剥がれて草が生えているので、対応してほしい。 ● 4 年ぐらい前に通学路のグリーンベルトを要望し、大変良い方向に進んでいる。その後の町全体の進捗を伺いたい。 ● 岐阜県南大野線の拡幅工事について、下磯区の小学生が 30 名ほど横断して通学している。信号機について要望しているが、前向きに検討してほしい。IC ができて、岐阜関ヶ原線との交差点に信号機ができと思うが、歩行者用の信号機も設置してほしい。 ● 岐阜県南大野線について、上磯区を南北に横断していて、カーブも多く、塀に車がぶつかる事故も起きていて危険。IC ができると益々交通量も増える。県に工事を早く進めてもらうよう要望したが、回答は曖昧だった。町としてはどのように考えているか。 ● 五之里の交差点改良について進捗を伺いたい。 ● 交差点付近にガードパイプがあるが、南小へ向かう 1 km ほどの歩道にはないため、設置してほしい。 ● 南保育園前の道路について、歩道内に花壇があるが撤去してもらいたい。自転車の通行もあるため危険。
交通（公共交通）
● デマンドタクシーが計算すると約 24 分に 1 回の利用となるが、結構待たないといけない印象。

④教育・文化分野

<学校教育>

学校教育
● 高齢者や子どもに優しいまちになるよう、例えば小学校間で児童の交流を何とかしてはどうか。 ● 小学校について統廃合の構想はあるか。 ● タウンミーティングに30～40代の参加者が少なく残念。PTAの研修に参加したところ地域と学校が協力して成功した事例を目にした。子どもたちの安心、安全のため公民館や学校の交流をバックアップしてもらいたい。

<生涯学習・生涯体育>

生涯学習
● 第4公民館は第6公民館に次いで古い公民館で、空調も温度調節ができない。なんとかしてほしい。
生涯体育
● テニスコートの利用料について、1時間200円の利用料の納付案内が郵便で届いた。郵便料もかかるし、採算が合わないと思うので改善してほしい。

<地域文化>

地域文化
● JA 富秋支店について、町で購入したと聞いたが、今後の展望は？敷地内の雑草管理もしっかりしてほしい。

4 目標指標一覧

	節	項	指標名	単位	現状値 (計画策定時)	目標値 (2019)	実績値 R1(2019)	目標値 R6(2024)
安全・安心	災害に強く安全なまち	防災・消防・救急	日頃から災害への備えをしている町民の割合	%	47.6	55.0	50.1	60.0
			耐震性貯水槽の整備数	基	23	28	28	32
			消防や救急に不安を感じたことがある町民の割合	%	29.1	25.0	29.6	25.0
			防災士の人数	人	17	27	33	37
			消火栓ボックスの更新数	基	96	480	504	750
			防災啓発（教育）活動における受講者数（延べ人数）	人	—	—	50	250
		防犯・交通安全	犯罪がなく安心して暮らせると思う町民の割合	%	60.4	65.0	65.8	70.0
			犯罪発生件数	件	149	135	130	120
			交通マナーを守り、交通安全の意識が高いと思う町民の割合	%	50	55.0	50.5	60.0
			交通事故死傷者数（千人当たり）	人	4.9	4.5	2.0	2.0
			LED 灯の設置数	基	0	800	899	1,200
			免許証自主返納者数（累計）	人	93	—	400	900
		消費生活	消費生活相談員の設置	件	0	1	1	1
			消費生活の中でトラブルにあったり不安を感じたことがある町民の割合	%	9.8	9.0	10.6	9.0
	いきいきと健やかに暮らせるまち	健康増進	健康づくり等講座開催数・参加者数	回 人	46 回 956 人	50 回 1,000 人	<u>40 回</u> <u>713 人</u>	60 回 1,000 人
			がん検診を受診する割合	%	12.7	14.0	<u>12.7</u>	15.0
			介護予防教室参加者数	人	227	250	297	400
			健康づくりに取り組んでいる町民の割合	%	58.4	65.0	58.5	70.0
			ゲートキーパー養成講座受講者数（延べ人数）	人	—	—	107	250
		保健・医療	身近な地域で安心して医療を受けられると感じている町民の割合	%	60.1	65.0	56.9	65.0
	支えあい安心して暮らせるまち	地域福祉	福祉教育（社会教育）の推進	小学校区	0/6	2/6	2/6	6/6
			福祉ボランティア活動団体数（社協連携）	団体	13	18	13	15
			日頃から隣近所の人たちと付き合いや交流がある町民の割合	%	78.0	78.0	70.7	80.0
			成年後見制度利用支援事業利用延べ人数	人	0	—	0	10
		高齢者福祉	介護予防教室参加者数（再掲）	人	227	250	297	400
			生きがいを感じて暮らしている高齢者の割合	%	70.3	72.5	66.3	75.0
			日常生活の中で孤独や不安を感じている高齢者の割合	%	37.4	34.0	40.2	31.0
			成年後見制度利用支援事業利用延べ人数（再掲）	人	0	—	0	10
		障がい者福祉	地域生活支援事業（日常生活用具）利用延べ件数	件	175	180	<u>273</u>	520
			成年後見制度利用支援事業利用延べ人数（再掲）	人	0	10	0	10
			町内の障害者相談支援事業所数	箇所	1	1	2	2
			大野町は子どもを産み育てやすいまちと思う町民の割合	%	66.1	—	60.6	70.0

	節	項	指標名	単位	現状値 (計画策定時)	目標値 (2019)	実績値 R1(2019)	目標値 R6(2024)
安全・安心	支えあい安心して暮らせるまち	子育て支援	放課後子ども教室設置箇所数	箇所	0	2	6	6
			子育て支援センターの充実	箇所	2	3	4	4
			大野町は子どもを産み育てやすいまちと思う町民の割合（再掲）	%	66.2	70.0	60.6	70.0
			木育の推進 おおの木育フェアの開催	回	0	継続的な開催を検討	1	1
			「子育てはうす ばすてる」入館者数	人/日	—	—	151	160
		社会保険制度	国民健康保険税収納率	%	92.8	94.0	(H30)94.3	94.0
			保険給付費	円/人	313,011	県内町村療養諸費平均以内	(H30)314,287	県内町村療養諸費平均以内
			国民年金保険料納付率	%	69.4	72.5	(H30)76.5	80.0
			特定健康診査受診率	%	39.1	60.0	36.3	50.0
			大野町は子どもを産み育てやすいまちと思う町民の割合（再掲）	%	66.2	—	60.6	70.0
産業・交流	産業が元気で活力あるまち	農業	担い手への農地の利用集積	%	29.5	50.0	44.8	55.0
			認定農業者数	経営体	27	43	45	49
			地元の農産物を購入するようにしている町民の割合	%	51.5	60.0	49.5	60.0
			優良農地面積	ha	1,200	1,190	1,170	1,130
			おおのブランド野菜の認定数	品種	—	—	0	5
			農作物の被害額の減少	千円	—	—	2,628	2,365
			GAP 及び HACCP 等の認証件数	件	—	—	0	1
		商・工業	大野町企業立地促進条例に基づく奨励金措置を受けた事業所数	事業所	3	6	8	12
			小売業の年間商品販売額	百万円	15,909	15,950	16,336	16,000
生活・環境	多様な交流が活発なまち	観光・交流	特産品「大野の太鼓判」認定商品数（累計）	点	2	10	19	20
			町外からの来訪者に紹介したい・自慢したい場所・観光スポットがある町民の割合	%	24.1	30.0	26.6	30.0
			観光入込客数（町全体）	人	298,501	—	700,000	750,000
		市街地整備	農地や市街地など適正な土地利用がされていると思う町民の割合	%	58.3	60.0	41.3	60.0
			名鉄廃線敷有効利用施設の整備率	%	0	45.0	5.0	20.0
			地籍調査実施率	%	8.0	9.0	8.2	10.0
			身近な地域で安心して医療を受けられると感じている町民の割合（再掲）	%	60.1	65.0	56.9	65.0
生活・環境	生活基盤が整い快適に住み続けられるまち	河川・水路	水害の不安が無く安心して暮らせると思う町民の割合	%	69.3	70.0	68.0	75.0
			水辺を身近に感じることができる町民の割合	%	59.9	65.0	52.2	65.0
		公園・緑地	公園の特性を活かしたイベントの開催	回数/年	2	3	4	5
			日頃から町内の公園・緑地を利用している町民の割合	%	26.4	30.0	22.9	35.0
生活・環境	生活や産業を支える交通が整ったまち	住宅	木造住宅の耐震診断件数	件	132	182	164	215
			空家の活用	%	—	—	0	調査による空家件数の10%
			若年層（15～34歳）の転出入の均衡	人/年	-77	—	-138	±0
			空家対策・町営住宅・木造住宅の耐震化支援等に関する満足度	%	8.2	—	6.9	10.0

	節	項	指標名	単位	現状値 (計画策定時)	目標値 (2019)	実績値 R1(2019)	目標値 R6(2024)
生活・環境	生活や産業を支える交通が整ったまち	生活排水	污水处理人口普及率	%	52.2	80.0	<u>75.4</u>	90.0
			合併処理浄化槽の設置補助数（個人型）	基	1,648	3,196	<u>2,753</u>	4,000
			合併処理浄化槽の設置補助数（集合型）	基	2	4	2	6
		水の供給	管路の耐震化率	%	16.5	24.0	<u>18.5</u>	29
			安心しておいしい水を飲めると思う町民の割合	%	78.2	80.0	80.3	82.0
		道路	町幹線道路の整備率	%	25.0	35.0	68.7	70.0
			長寿命化修繕計画による修繕率	%	12.0	50.0	40.9	100.0
			大野町は車で移動がしやすいまちと思う町民の割合	%	79.1	80.0	64.5	80.0
			徒歩や自転車で安全に移動ができると思う町民の割合	%	47.2	50.0	41.3	50.0
			道路の整備、道路・橋梁の維持管理に関する町民の満足度	%	16.5	—	20.1	25.0
		交通（公共交通）	町デマンドタクシーの利用者数	人	1,120	2,670	<u>9,136</u>	15,000
			交通分担率（通勤通学等の移動に公共交通機関を利用する割合）	%	7.8	15.0	8.5	15.0
			通勤通学や買い物等の日常生活の移動に不便を感じている町民の割合	%	46.9	40.0	48.9	40.0
			高速バス路線数	路線	0	—	0	1
			あいのりくんプラス利用者数	人	—	—	<u>1,730</u>	1,800
	環境と共生した持続可能なまち	ごみ処理	資源物のリサイクル率	%	22.9	26.5	<u>15.0</u>	26.5
			家庭系可燃ごみの年間排出量	t	3,031.7	3,000.0	<u>2,819.6</u>	2,970.0
			日頃からごみの減量や資源化に心がけている町民の割合	%	79.2	80.0	77.9	85.0
		環境保全	公害苦情申し立て件数	件	64	30	<u>42</u>	20
			太陽光発電システム設置	戸	383	1,100	<u>542</u>	700
			環境創出協定締結数	件	0	10	0	10
			公害防止協定締結数	件	15	30	11	30
			日頃から省エネルギーに心がけている町民の割合	%	76.4	80.0	72.1	85.0
			大野町では自然や多様な生物とのふれあいができると思う町民の割合	%	64.3	65.0	58.5	70.0
			町民カレッジのうち、環境に関する講習等への参加者（延べ人数）	人	—	—	56	300
教育・文化	次代を担う子どもたちをみんなて育むまち	学校教育	町非常勤講師の充実	人	37	40	48	50
			学校を楽しんでいる児童・生徒の割合	%	86.2	88.0	91.4	90.0
			不登校傾向が見られる児童・生徒数	人	29	—	<u>42</u>	36
			学力・学習状況調査 夢・目標を持っている割合	%	小 84.3 中 62.9	— —	83.9 72.9	90.0 75.0
			教育環境の整備・充実、学力の育成に関する満足度	%	10.5	—	14.7	20.0
	みんなて学びあい誰もが活躍できるまち	生涯学習	各種講座の参加者数	人/年	4,382	4,400	4,612	4,700
			青少年による諸活動への参加者数	人/年	346	370	361	380
			日頃から生涯学習や余暇活動などを充実して過ごしている町民の割合	%	38.1	40.0	35.7	40.0

	節	項	指標名	単位	現状値 (計画策定時)	目標値 (2019)	実績値 R1(2019)	目標値 R6(2024)
教育・文化	みんなで学びあいが活躍できるまち	生涯体育	施設利用者数	人/年	106,830	110,000	149,787	150,000
			スポーツ・レクリエーションイベント参加者数	人/年	1,650	1,700	2,100	2,300
			定期的にスポーツをしている町民の割合	%	31.5	35.0	31.7	40.0
			スポーツ施設の整備・維持管理、障がい者スポーツの普及に関する町民の満足度	%	14.2	—	14.5	20.0
	歴史や文化を大切に守り継承するまち	地域文化	文化財等の啓発・学習事業の実施件数	件	18	20	24	24
			文化財の認知度	%	67.6	70.0	67.8	75.0
			町の歴史や文化に興味がある町民の割合	%	43.3	50.0	41.7	50.0
			歴史や伝統文化に係る活動への参加者数	人	450	—	566	570
計画推進	様々な人の連携と協働で築くまち	住民参加	施策立案や事業計画に対して意見ができる機会の開催回数・参加者数	回 人	6回 278人	6回 400人	6回 510人	6回 500人
			住民活動団体・NPO法人等の数・登録者数	団体	8	10	7	10
			大野町は町政に町民の意見が反映されていると思う町民の割合	%	47.2	50.0	48.6	53.0
			町政（まちづくり）に関心がある町民の割合	%	63.1	65.0	59.6	70.0
			日常生活や社会において男女が平等であると感じる町民の割合	%	6.6	25.0	6.7	25.0
		男女共同参画	人権施策に係る講座・講演会への参加人数	人	250	400	160	400
		情報化	電子申請システムの利用件数	件	0	500	1,383	1,500
			町ホームページのアクセス件数（月当たり）	件	4,700	13,000	57,223	73,000
			情報技術を有効に活用し行政サービスが便利になったと感じる町民の割合	%	47.7	52.0	40.7	52.0
	計画的で効率的に行財政を進めるまち	町政運営	町政運営に対する満足度	%	12.1	25.0	11.9	50.0
			職員の町民への対応の満足度	%	69.7	75.0	75.5	80.0
			手続きの満足度	%	68.1	75.0	70.9	80.0
			指定管理者制度導入施設利用満足度	%	55.9	65.0	63.2	80.0
			税金が正しく使われていると思う町民の割合	%	46.9	55.0	49.6	65.0
			口座振替利用率	%	50.5	55.0	(H30)51.3	60.0
			町税徴収率（現年）	%	98.1	98.5	(H30)99.1	98.8
		広域行政	他団体と連携している取り組みの数	件	5	6	6	7
			市町を跨ぐ行政サービスの提供によって生活が便利になったと感じる町民の割合	%	55.4	60.0	61.7	65.0
			バーコード読み取り用納付書を使用した件数におけるスマホ決済利用率	%	—	—	(H30)0	10.0

5 用語の解説

	用 語	概 説
あ	アウトソーシング	企業が自社の業務を外部の専門業者などに委託すること。
	アクセス	接近、進入するの意。ある目的地への交通手段などのこという。
	アダプトシステム	住民や地元企業が「里親」として一定区画の道路や河川、公園等を自らの養子（アダプト）とみなし、定期的清掃活動などを行う仕組みのこと。
	インパクト	「衝撃」「効果」「影響」などの意。
	インフラ	「インフラストラクチャー」の略。基盤、下部構造などの意。一般に水道や道路、電力網などの社会基盤のことをさす。
	AI	「Artificial Intelligence」の略。人工知能のこと。大まかには「知的な機械、特に知的なコンピュータプログラムを作る科学と技術」と説明されているものの、その定義は研究者によって異なっている状況。
	エコタウン	廃棄物の排出抑制・減量、省エネルギーや資源の有効利用などをまちづくりの主眼に置く計画等に用いられる呼称。
	エネルギーステーション	太陽光パネル、発電機、蓄電池を整備することによりEV（電気自動車）や既存施設への電力供給を行うことができ、災害時にもエネルギー供給拠点となる施設。
	LED灯	発光ダイオード（LED）を使用した照明器具。従来の白熱電球と比べて低消費電力で長寿命とされている。
	オープンスペース	都市または敷地内で、建造物の建っていない場所。空き地や広場のこと。
か	環境保全活動啓発冊子	地球温暖化防止を目的として、環境にやさしい生活の取り組みを進める際のヒントや環境家計簿等を備えた冊子。
	関係人口	移住者、観光客ではなく、短期滞在やボランティアなどさまざまな形で継続的に地域と関わる人のこと。
	クリーン農業	自然環境に優しいクリーン農業技術を導入し、農薬や化学肥料の使用を必要最小限にとどめて、より安全で高品質な農産物づくりを目指す農業のこと。
	GAP	「Good Agricultural Practice」の略。欧州の大手スーパー等の大手小売が独自に策定していた食品安全規格を標準化するための民間団体の呼称。欧州小売業組合（EUREP）が2000年にEUREPG.A.P.を設立し、2007年GLOBAL G.A.P.に改称した。
	ゲートキーパー	自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のこと。「命の門番」とも位置付けられる。
	減災	災害時において発生し得る被害を最小化するための取り組み。防災が被害を出さないことを目指す総合的な取り組みであるのに対し、減災は予め被害の発生を想定したうえで、その被害を低減させようとするもの。
	交流人口	主に自地域の外部から、その地域に訪れる（交流する）人口を指す。

	用 語	概 説
	コンパクト	小型でまとまっているさま、無駄を省いて小さくまとめているさま、簡潔であること。
さ	JTE	「Japanese Teacher of English」の略。日本人の英語指導者のこと。
	スクールアドバイザー	認定こども園、小・中学校の校種間を円滑に接続するため、発達の困り感、コミュニケーションの困難さ、学年相応の学力が身についていないなどの個々の状態を把握し、一人ひとりのニーズに合わせた途切れのない支援を行うためのアドバイスを行う者のこと。
	ステークホルダー	組織が行う活動によって直接的または間接的な影響を受ける利害関係者のこと。
	ステーション方式	ごみの収集方法の1つ。地域の方々（数世帯）が自治体で定められている特定の1ヶ所（ごみステーション）にごみを出す方式。
	ストック	備蓄や在庫のこと。
	ストックヤード	物資あるいは廃棄物などを一時的に保管するための場所。
	スマートシティ	IoT（Internet of Things：モノのインターネット）の先端技術を用いて、基礎インフラと生活インフラ・サービスを効率的に管理・運営し、環境に配慮しながら、人々の生活の質を高め、継続的な経済発展を目的とした新しい都市のこと。
	Society5.0	内閣府の第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されたもの。これまでの狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、「サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）」のこと。
	ゾーン	区域や地域の意。あるまとまった領域のことという。
た	タウンミーティング	主に地域住民の生活に関わる事項を話題とする集会。一般に行政当局または政治家が実施する対話型集会を指す。
	ティームティーチング（TT）	複数の教員が役割を分担し、協力しあいながら指導計画を立て、指導する方式のこと。
	低炭素社会	二酸化炭素の排出が少ない社会。
	デマンドタクシー	乗客の希望時間帯、乗車場所などの要望（デマンド）に、安価な料金で応える交通サービスの一つ。
	電子自治体	コンピュータやネットワークなどの情報通信技術（ICT）を行政サービス分野に活用し、住民や企業などの事務負担の軽減や利便性の向上、行政事務の簡素化・合理化などを図り、効率的・効果的な自治体を実現しようとすること。
	東海環状自動車道西回りルート	東海環状自動車道は、愛知県豊田市が起点となり、同瀬戸市、岐阜県岐阜市、大垣市等の主要都市を経て三重県四日市市に至る延長約160kmの高規格幹線道路。大野町は関市以西方面の区間（西回り）に位置し、

	用 語	概 説
		大野町を含む沿線一帯では工業団地等の整備・計画が進められ、沿線市町での地域経済の活性化が期待される。
	特別支援教育	障がいを持つ児童・生徒の自立と社会参加を支援するための教育。
	都市計画基礎調査	都市計画法第 6 条により、都市計画区域について概ね 5 年ごとに実施する調査。都市計画区域内における人口規模、産業分類別就業人口の規模、市街地の面積、土地利用、交通量等、現況及び将来の見通しについて調査する。
	都市計画道路	都市の骨格を形成し、安全で安心な町民生活と機能的な都市活動を確保する、都市交通における最も基幹的な都市施設として都市計画法に基づいて計画決定された道路。
な	南海トラフ	四国の南の海底にある水深 4,000m 級の深い溝（トラフ）のこと。非常に活発で大規模な地震発生帯である。
	ネットワーク化	機器等を相互に接続すること。転じて交通網の整備や新たな関係性などをつくる时候にも用いる。
	農地中間管理機構	我が国の農業の構造改革を推進するため、農地利用の集積集約化を行う。農地所有者と農業経営者の間に立ち、農地の中間的な受け皿となる。
は	HACCP	「Hazard (危害)」「Analysis (分析)」「Critical (重要)」「Control (管理)」「Point (点)」の略語。食品を製造する際に安全を確保するための管理手法のこと。
	パートナーシップ	2 人以上の人間が金銭、労務、技術などを出資して為される共同の営利行為関係またはその契約のこと。
	パブリックコメント	公的な機関 が規則あるいは命令などを制定しようとするときに、広く公（パブリック）に、意見・情報・改善案など（コメント）を求める手続をいう。
	BCP	災害などリスクが発生したときに重要業務が中断しないこと。また、万一事業活動が中断した場合でも、目標復旧時間内に重要な機能を再開させ、業務中断に伴うリスクを最低限にするために、平時から事業継続について戦略的に準備しておく計画。
	V2H	「クルマ（Vehicle）から家（Home）へ」を意味する言葉。電気自動車に蓄えられた電力を、家庭用に有効活用する考え方のこと。
	ブランド	製品につける名前、あるいは名前がついた製品そのものを指す。転じて他と区別できる特徴や高い付加価値のことを指す場合もある。
	プロジェクトチーム	一般に、企業などが新事業への進出や新製品開発、新規販路の開拓など新たな取り組みを行おうとする際に発足される組織、体制のこと。
	HEMS	「Home Energy Management System」の略。家庭内で多くのエネルギーを消費するエアコンや給湯器を中心に、照明や情報家電まで含め、エネルギー消費量を可視化しつつ積極的な制御を行うことで、省エネやピークカットの効果を狙う仕組み。

	用 語	概 説
	ポータルサイト	インターネットにアクセスする際の玄関口となるウェブサイト。
ま	MaaS	「Mobility as a Service」の略。ICT を活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体にかかわらず、マイカー以外のすべての交通手段によるモビリティ（移動）を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな「移動」の概念のこと。
	まちづくり基本条例	住民自治に基づく自治体運営の基本原則を定める条例。
	マンパワー	労働力。仕事などに投入できる人的資源のこと。
	木育	木材の良さやその利用の意義を学ぶ教育。木材や森林との関わりあいから、知育、徳育、体育の3つの側面を効果的に育むものとされる。
や	ユニバーサルデザイン	障害の有無にかかわらず、すべての人にとって使いやすいように はじめから意図してつくられた製品・情報・環境のデザインのこと。
	幼保小中の連携	幼児期から義務教育期までの子どもの視点に立った一貫した教育の実現を目指す取り組みのこと。
ら	リニア中央新幹線	東京都から大阪府に至る新幹線の整備計画路線で、超電導磁気浮上式リニアモーターカー「超電導リニア」により建設される。
	リユースマーケット	主に古着、書籍や映像ソフト、生活雑貨などの中古（リユース）品を持ち寄って行うフリーマーケット等の催しのこと。
	6次産業化	農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通 販売にも業務展開している経営形態を表す。
	RPA	「Robotic Process Automation」の略。ロボットによる業務自動化の取り組みを表し、少子高齢化に伴う労働力人口の減少や、働き方改革の要請などの社会的背景もあり注目されている。
わ	Wi-Fi	無線でネットワークに接続する技術のこと。

大野町第六次総合計画 後期基本計画

令和 2（2020）年度～令和 6（2024）年度

発行 大野町

〒501-0592 岐阜県揖斐郡大野町大字大野 80 番地

TEL 0585-34-1111

FAX 0585-34-2110

